

教育講演:腎不全医療と社会資源

医療法人衆和会 長崎腎病院

○藤原久子 林田めぐみ 河津多代 澤瀬健次 橋口純一郎 原 健二 原田孝司 船越 哲

【はじめに】

私達医療ソーシャルワーカーは先生方スタッフの方と共に日々腎不全医療にまい進中です。役割としては、腎不全医療の縁の下を支える重要な役割を頂いています。本日は縁の下で、必要とされる社会資源について30分にわたりご紹介させていただきます。ちなみに私は縁の下の力持ちになりたく何十年も努力中ですが、未だなれていません。未熟者ですが、本日はお付き合いの程を宜しくお願いします。

【本日の紹介内容について】

①社会資源とは(インフォーマル、フォーマル)②腎不全医療における社会資源とは③腎不全医療における社会資源活用に際しての重要事項(ポイント)④事例紹介⑤考察、まとめ⑥今後の課題

【社会資源とは】

社会資源とは「現代社会福祉事典」の中では、社会資源を「ソーシャル・ニーズを充足するために動員される施設・設備・資金や物資、さらに集団や個人の有する知識や技能を総称していう」としている。また供給主体を基に大きく類型するならば、フォーマルかインフォーマルとなる。インフォーマルでは家族成員、親戚、友人、同僚、近所の人、ボランティア等。フォーマルでは行政によるサービスや職員、認可や指定を受けた民間機関や団体サービス等である。

【腎不全医療における社会資源とは】

社会保障としては、医療保険制度、年金保険制度、介護保険制度、労働保険制度、社会福祉制度、生活保護制度等各種制度があるが、特に医療保険制度に関しては特定疾病受領書や自立支援医療や重度障害者医療等類をみない手厚い保障がある。

その為、患者の医療費の窓口負担が少ない。また障害年金に際しても、透析治療をしていれば、等級が2等級以上の認定あり。

【腎不全医療における社会資源活用に際しての重要事項】

社会資源をよりよく活用する為に重要な事としては、身体面、精神面、社会面という多面から透析患者についての基礎的知識と理解が必要。又個々の透析患者について具体的な情報収集や面談などを行い、その人らしさを反映させた(個々の)社会資源提供とする。

【事例紹介】

症例1 終末期まで僧侶として人生を希望した症例

症例2 女性として人生の誇りをかてとした症例

症例3 透析日を忘れてしまい自由奔放に外出する独居認知症患者の支援

症例4 主介護者が高齢の夫であり在宅で看取りを行った認知症透析患者の支援

症例5 認認介護の為妻が透析拒否をさせるようになり施設入居する事で最期を迎えた症例

【考察、まとめ】

症例において、その人らしさを反映した社会資源の提供をおこなう事ができた。ただ、それのみで上手く支援できたのではなく症例に対しての大きな敬意と人格を尊ぶ姿勢が、最重要な事である。

【今後の課題】

公的な社会資源は、サービス選択・決定・契約するものがいなければ社会支援サービスを引用できない。そのような問題に関し、成年後見人制度が2000年から施行しているが、現在のところ素早くは機能されていない面もあり、今後の課題でもある。